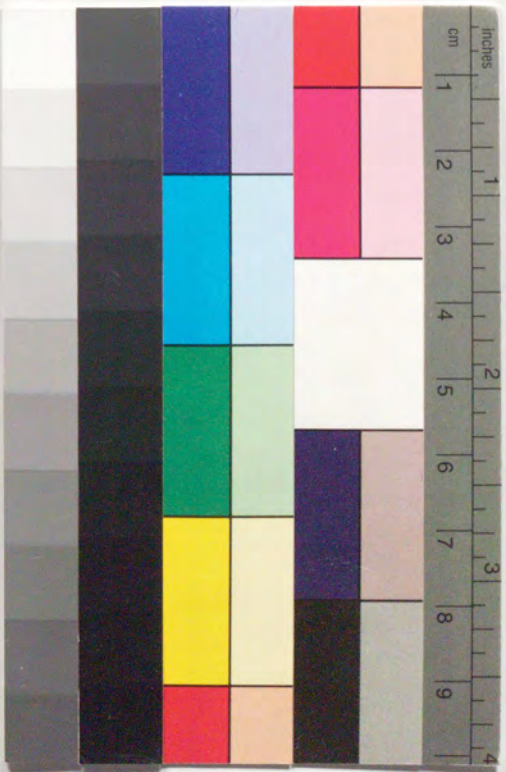






夢蒙  
修身  
妙江  
孝



孝子  
圖



虞舜孝感天

虞舜耕ていのけち  
なりちをこそ  
といふいとけなく  
ててよかく  
ちの親をめぐりて  
舜といへる子と  
くむち、いもと  
よまうく  
ものまてのち  
ぞへと愛  
あひけ、あか人を  
まゝおろ人、舜を  
甚悪め共、舜を  
これをうりまけた父母

まゝおろ人、舜を  
わがめのち  
ついで大

うみくの  
とくあつたれて

堯のおつりを  
うけて天子

とふりたふへり  
曾ておさなき

ありふ山  
たふやうふ

たふやうふ、  
なまけふ来りてその

所をたふくこき、孝  
心とんをらんぬまふ



漢文帝親書湯藥  
 かんのかうしんのがしはまじしくて天子の  
 くらじまつたまひ

薄太夫人  
 へいはうじん  
 行  
 ぞつく

一たまたまかん  
 ぞん病まじりふ  
 とさうぢうぢい  
 かんをときたま  
 はげあさふの

あよくをそとめ  
 くすりなをさまで  
 とつりなめでころ  
 かてあんぞふぞくあたたまふ  
 てんしのたうまかん  
 かんをときたまふ  
 ことしとあてがたふ  
 海くうかん  
 ちんごん



とうーまのひとや  
うつろうてそさずけ  
なまふとぞあるたあで  
そうしん山へきまを  
とりはかきさりしちとへ  
ぞこのゑさくき人きさりけせバ  
母もてまうとせんとなおもへども



かへせう——と  
おもひて、  
とづかうむびたを  
うごけるが  
やまのなうふ  
をまへ——そう  
うわねま  
いこくけるよ  
あらふつにぞぞ  
とかなふまはきく  
もてまう（うう）  
そのわだかまり  
うう——ちやうど

ちぢふてしそぎ。ささの  
 ちぢかふさるるやん。まごこちまりと  
 までよりへなりそし。かんしんたまりなりや  
 そのわへとかてりたる。家たなくひまをたよ。  
 うう。ちぢさですれ。孝刊こそ云べ

孝子とぞ云





仲由 爲親 爲父

ちうめういとうもんすてのうちなまゐへ  
まづーくーてとつうふこめを

もろそとびそのちんをとりて

ふさやまやーあいち、

そと、洗してのち、

國王はつゝへ大功を

の身の上とふりて

飲食いふき

ひとつと

ーて

えやうえい

ぐぬの身と

ありーか

ちうめういとうもんす

よるこじとせし



わうーひんきつ

ローイぢやうと

やーあじらゐるや

ーんじす

つかくあぢやう

かあーん

とをぢま

孝心かんけ

べー



22522430-20

つ  
く  
の

ひてく



子鹿乳奉親  
 せんいそのせいのと  
 おどいをつまひし  
 うまをけあひ  
 つこめへい  
 の名を給せり  
 父母とよりて  
 目をあつたけぬぞ  
 鹿りやうをひらふま  
 まのちくさあちひきぬ  
 いからーといふふれど  
 とろーたるあうまあて  
 もとむるまふあうま  
 かぶりて山井(おき)うま  
 ましうまうまうまうま



このときうら  
 ささり御と  
 らんとれせん  
 おどろき  
 こゑを  
 あけて  
 その実を  
 つけらば  
 けられ  
 おく女を  
 ふけてやな  
 りぬる



うらそあさかうあれ  
 せいのいのちを  
 みをあけて必死のやうに  
 まぬれあさ

江戸行 催供母  
 後々のひとふり 世のちんぷあひて  
 せうともふひたにくこわきで  
 身んをすけその

ありまどか  
 まーて  
 ひとよや  
 とはれ  
 てで  
 そや  
 ーあひ

けらその  
 後世をさるなりて  
 故郷へかへるとぞ

せうとくまふ  
 のせうしむまふ  
 てへちむらき  
 なまんと  
 づみひひて  
 かへれり  
 世こそ  
 きよ孝と  
 後いなる  
 このふと  
 まうて  
 はきこえて  
 高くてんと  
 さつげられゆくすえ  
 めてくめくさかえりり



陸奥

懐徳遺母

三國の時人  
なり六才の

とき

遠逝

うたへ

わきまよ

もてあ

い

た

な

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

よりくせひをぬき三つを  
ふたつまゝにうへにとき  
けりな地な

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり

なり



唐夫人  
乳節不慮  
なうしんせ  
唐のてくせう  
ふもさふんと  
いふひとの妻  
ふりあうとめの  
長御ふいんよつて  
て芽をつくせうて

ちやうそんふん

とくつてすふせう

ふとれれあさふ

乳をゆめてあふ

れらにむひやう

長御をたもち

やまひにりし

せんぞくを

せし

いんちん

死は

子孫

ちと

わい

か

の

い

ん

て

う

せ

り

突猛  
忘 驚 動 血  
こもつていづれのことなる  
人といふを——と  
ハ、さうするの  
谷 世はさうとえんか

そのつてふとまづ——と

あつのはげしいのであつち、  
せ、数はおやこ五人にせんとせ  
あふとつとまふてうそ、のう  
てらふ、すむ、けりたりとも心あ  
父母をくちとせおせよ父母ハ  
す、ちいて、つ、う、す、  
や、れ、ち、ち、ち、ち、ち、  
あ、く、ま、で、く、ち、ち、  
ち、の、さ、身、の、さ、ま、も  
み、え、ぬ、ま、で、ち、ち、ち、ち、ち、  
う、ご、り、ち、ち、ち、ち、ち、  
と、じ、や、ん、を、お、れ、ち、ち、ち、  
あ、ら、ん、ち、ち、ち、ち、ち、ち、  
如、斯、に、ち、ち、ち、ち、ち、ち、

朱壽昌  
縣軍時  
七歳のころうちあがり  
は美女をよめて  
壽昌のトツのそそ  
さうけりといふ  
さしてふかき  
あけくこのあき  
ふくもとより  
孝心ふ  
るき  
もの



ふと  
けきある  
おふ事  
つてて天の  
ぞといたふ心  
至て切なれども  
いづこあつた  
ぞとのちだぞとよつて  
かうくそつくしりふそのち  
五十人そまててちのちだ  
こまかりふそれより官をまてその  
わくをまててんはのり地はのりけし  
このとき  
えて  
どろきりな  
らふりや



王祥

王祥

ひとまじり  
つらて孝行なり  
あるときなまじり  
をくらんとてのふと  
なるにこつもの人  
てあるしきやまて  
江はみづぞう免鹿を  
とるきてすましと  
いふもかく孝心  
ありきとさればあり  
おのれはうらりの上  
はあて心の中うと人  
とていのりけりあり



王祥

王祥

二ひきれ

とぬ

あせり

いでたり

よろこび

もちろへり

ててい

そき

なり

孝のとてんを

うんせーむ

ことりくのと



郭巨爲母埋子  
後人々人々家ちうくゝて  
老母をやあふ  
そのいふくぬそく  
あふんとぞ  
うふゝむ  
じふなり三才  
のまごぞ  
いづくゝ  
まのゝしとて  
まじけちあふ  
へ(郭巨)うふ  
とふとふん  
してそのこと



ついでにさき  
第一巻を  
あさり  
天々うし  
くわつきよ  
ふたふゆ  
といふもんず  
あり  
よつて  
ごまごま  
いんどく  
さけく  
おぼえ  
つくしうり  
とあん

あまぬく  
きよきこえ  
乃じとふん

廣敷業  
 貴賈憂心  
 せんきと  
 いかにろ  
 の令とあそ  
 てわきまが  
 いくかど  
 なくむふ  
 さえきあきり  
 はして身  
 よとあせうで  
 乃れバこそ  
 八とふありに  
 故分のちい  
 身のうふらん



たりしち  
 孝の心を  
 ついに  
 する

うといそき  
 うへりーよ  
 えとてち  
 ちもき疾利を  
 三つといふち  
 そのせやくさ  
 きとちえをいふかり  
 乃れわへあり 次巻を  
 かさりらん 病ふれはまふん  
 やまひあつー 医師をいふやう  
 その病のあちあふてかきま  
 いわへーあまうらひえちと  
 いひげふわへつうその業を  
 ふめころくけふあまかり  
 乃れバ力さかとー



黄香扇枕温衾  
 徐くんの人なり黄香子ハ

彼んくうけいてん  
 だうくをまう  
 するをもつてその名  
 高九才のときえこ  
 うしむじくうつへ  
 けるがもとよりハ  
 ちづくめつち  
 ちれんはつ  
 くら力をつて  
 るつのあつて  
 くらにむ  
 ぬんて  
 あふさ口

口  
 ちんくをまうへん冬  
 のまをより身をかづ  
 たりてあつてあつて  
 ちんくをまうへん冬  
 のまをより身をかづ  
 たりてあつてあつて

孝行  
 ちんくをまうへん冬  
 のまをより身をかづ  
 たりてあつてあつて



朝てし  
 つくつて向書  
 合機  
 大守  
 いさる



孝詩  
清泉濯足  
後漢のひとあり  
そまつかへて  
田舎ありその  
つらなり氏も

まゐるうと  
めよ孝行を

つくしけふあつちよ  
ぞく井のくつまをさし  
江のくつそのもとをさ  
こむこのへちうくま  
きよき江のくつまをさ  
よりて日々なり氏  
とうきよきくつま

くみきなり母よ  
そめ月夜のそめ

きやうしうのくつまを  
しつて江のくつまをさ  
まのくつまをさある二ひきのこ  
しで、供食のたそけとなりしとす



老榮子 戯線 親

わくきとより 孝行をつくしけるが  
その身すてて七十九にあまりのれむ  
そぞい 猶ぞんめいばるーうい  
見り身のおをうなーうなふ  
うんをわひてきこともの  
やうなるものをとて  
さまぐのもて  
あそびもれ  
まどいさ  
たふぶを  
あそびて  
とー此  
よりて

▲休をみせ代あらとてさ  
つまつたうてて小兒の  
泣らるるぬてて  
ちんたのてさ  
さくさめり



二十五

王夷甫書泣墓

せうねん<sup>三十一</sup>とてそいつにて<sup>三十二</sup>芳<sup>三十三</sup>はふつ<sup>三十四</sup>つ<sup>三十五</sup>ぬ<sup>三十六</sup>を<sup>三十七</sup>の<sup>三十八</sup>ころ<sup>三十九</sup>は  
 そむ<sup>四十</sup>け<sup>四十一</sup>ら<sup>四十二</sup>ら<sup>四十三</sup>ら<sup>四十四</sup>と<sup>四十五</sup>そ<sup>四十六</sup>の<sup>四十七</sup>で<sup>四十八</sup>、<sup>四十九</sup>あ<sup>五十</sup>ら<sup>五十一</sup>も<sup>五十二</sup>と<sup>五十三</sup>そ<sup>五十四</sup>ら<sup>五十五</sup>と<sup>五十六</sup>  
 さ<sup>五十七</sup>と<sup>五十八</sup>は<sup>五十九</sup>う<sup>六十</sup>い<sup>六十一</sup>の<sup>六十二</sup>も<sup>六十三</sup>よ<sup>六十四</sup>う<sup>六十五</sup>し<sup>六十六</sup>あ<sup>六十七</sup>そ<sup>六十八</sup>た<sup>六十九</sup>え<sup>七十</sup>ん<sup>七十一</sup>は  
 は<sup>七十二</sup>あり<sup>七十三</sup>て<sup>七十四</sup>も<sup>七十五</sup>う<sup>七十六</sup>づ<sup>七十七</sup>け<sup>七十八</sup>て<sup>七十九</sup>そ<sup>八十</sup>の<sup>八十一</sup>い<sup>八十二</sup>を<sup>八十三</sup>あ<sup>八十四</sup>く<sup>八十五</sup>  
 さ<sup>八十六</sup>め<sup>八十七</sup>ら<sup>八十八</sup>ふ<sup>八十九</sup>て<sup>九十</sup>死<sup>九十一</sup>て<sup>九十二</sup>て<sup>九十三</sup>れ<sup>九十四</sup>う<sup>九十五</sup>が<sup>九十六</sup>當<sup>九十七</sup>の<sup>九十八</sup>  
 た<sup>九十九</sup>ら<sup>一百</sup>ん<sup>一百一</sup>ど<sup>一百二</sup>も<sup>一百三</sup>よ<sup>一百四</sup>う<sup>一百五</sup>き<sup>一百六</sup>て<sup>一百七</sup>そ<sup>一百八</sup>う<sup>一百九</sup>び<sup>二百</sup>と  
 あ<sup>二百一</sup>そ<sup>二百二</sup>れ<sup>二百三</sup>と<sup>二百四</sup>ま<sup>二百五</sup>ふ<sup>二百六</sup>て<sup>二百七</sup>三<sup>二百八</sup>、一<sup>二百九</sup>と<sup>三百</sup>み

ありと  
とでその

不とて

立きかぬ

とそ



孔又片又以





うづ





五前通竹生家  
 吳の墓にもと名を宗といひ  
 一はそんうはつうて可  
 くうとふ 其のひとが  
 きそめて置なふりーや  
 たりあうとあるやき  
 ううひやうけ  
 ぬつふ



ちうとぬききりまけのて  
 そのぞききえけしもうそ  
 もとそりうたふきわ  
 ちぬちくつんまおき天ま  
 のりあきくどきあうたちま  
 たけのとあきそつしぬきて生  
 たりよるこびかりえてはめ  
 ぬれがさけがろひやうもいえ  
 げりとる人



黄庭堅 蘇軾 蘇轍  
 とつろ山谷だうてんと  
 このいふんやうそくくー



詩 長トてんりの  
 ぶんそつとるに  
 よりてくせん  
 なくくへ  
 とみだり  
 あうまおに  
 かうんがく  
 いてまむを  
 とくはくはりも  
 あめでついで  
 ぞもつてめーつうひ  
 もねくありけれども  
 とつろ山谷だうてんと  
 ぶとんそつとるに  
 ちふたさうりなるこへ

明治十六年十二月廿二日 郵局  
明治十七年一月四日 出版

編輯兼  
出版人

丸山幸次郎

京橋區弓町  
拾二番地



二銭

幾  
亭  
痕  
三

水  
洞